

職長等の最後の勧告が如何なる結果を齎すか疑問である工場では最後に残る大阪廣海面車註文の新造船八千噸一隻を十八日朝大阪櫻島工場に廻航する事に決定してゐたが職長等の懇願に依り同日夕刻まで留め置き解決を見る事になつてゐる尚廣島地方裁判所檢察正代理官重役事は尾道支部小山田検事と共に種々調査する處があつた

職工側色めく、従業は一割六分

平靜に向ひつゝあつた因島労働争議は十七日前頃の通り工場側の要求に接し依然色めき立ち約百名の職工が同日午前九時土生所より安路愛媛縣越智郡生名村に渡り工場側の提安木の回答に就て鳩首協議をなす事初勢頗る険悪の兆があるのを警官數十名が嚴重警告中である因に十七日の従業職工数は争議因側よりは僅かに常備職工二名見習一名争議に關係なき者諸員人夫二百廿九名其他廿三名合計五百五十五名であつて実に全職工千五百名に對する僅かに一割六分に過ぎない

泣き叫ぶ児童をひき摺つて歸る

因島鉄工所争議が生んだ學童休校の悲劇

因島労働争議が生んだ學童休校問題は十七日から実行されたこの日多くの職工の家を子弟が登校せんとするを止めさせて種々の悲劇が演ぜられた、土生尋常小學校は平常の如く授業を開始したが全校生徒千五百名の内休校生徒五百名ありこの内四百余名が争議關係の職工子弟であることが判つた一方争議因下は十数名の職工を學校に赴かせ隠れて登校するものを警告戒し中には授業中受持教師に断りなく泣き叫ぶ児童を引摺り歸る母親もあり悲惨な光景を呈した、學校當局者は争議因との交渉は筋が違ふからこれを避けて直接家庭訪問をなし登校を督勵するの外はないといつてゐる。

六月十八日 大阪朝日新聞記事